

Title	文久二年遣歐使節のスケッチについて
Sub Title	
Author	今宮, 新(Imamiya, Shin)
Publisher	三田史学会
Publication year	1938
Jtitle	史学 Vol.17, No.2 (1938. 11) ,p.66(212)- 66(212)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	餘白録
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19381100-0066

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

文久二年遣歐使節のスケッチについて

一九三二年度の *Yamato (Zeitschrift der deutsch-japanischen Gesellschaft)* に黒田源次博士が *Die ersten japanischen Gesandten in Potsdam* と題して、日本最初の遣歐使節等がベルリンを訪問し、ポツダムに行つた時に *Georg Friedrich Bolke* と云ふ畫家の描いたスケッチを紹介してゐるが目珍しく思はれた。このスケッチは二人の日本人であるが、その一人は膝の上に紙片を乗せて字を書いてゐる所であつて、その日本字は大體「竹内下野守」「松平石見守」と讀み得るし、他の書きかけの一字は「京」と讀める様であるから京極能登守を示すものやうであつてこの中の二人をスケッチしたものに違ひないと思ふ。スケッチの上に *Japanischen Gesandtschaft in Raphaelaal, 28. July 62.* と少く記されてゐる。黒田氏はこの日付に依て、この畫は使節等が露國よりの歸路に再度ベルリンを訪問して約一週間滞在した時に書かれたものであると言はれてゐる。氏は使節一行は六月十九日にベルリンに到着して七月十日まで滞在したとされるので、スケッチの日付けが合はなくなり従つて二度目の時と説明されたのであらうと思ふが、これは間違ひである。當時の使節一行の日記類を見ると六月二十二日ベルリン着七月十日出發となつてゐるし、二度目の訪問は八月廿六日より廿八日までであつて、これに依れば二度目の時でもなくなるのである。而も此等の日付は何れも舊曆である。如何に日本使節をスケッチした畫家でも、日付まで日本流にしたとは考へられない。プロシヤ側の史料によると、使節は七月十八日午後九時半ベルリンに着き八月五日まで滞在してゐる。使節一行の日記に七月二日にポツダムに行つたとの記事が見えるが、これは丁度西洋流の七月廿八日にあたるのである。(今宮新)